夢を信じて

第19回

元アイスホッケー日本代表選手

岩崎（いわさき） 伸一（しんいち） さん

インタビュアー　えのきどいちろう

あなたが子どもの頃に抱いた夢は？　アスリートや一流の指導者が夢を持つことの大切さを語る「夢を信じて」。インタビュアーはコラムニストのえのきどいちろうさん。今回のインタビューゲストは、元アイスホッケー日本代表選手の岩崎伸一さんです。

――少年時代の岩崎さんは冷凍庫でアイスホッケーの特訓をしていたって話を聞いたことがあります。

岩崎　高校の頃ですね（笑）6畳なかったくらいの冷凍庫の中にゴールを作って。夏場に氷のある環境が他になかったんですよ。

――すごい環境ですね。でも、今はいろんな部分で整ってるんだけど、そんなふうに創意工夫でやる世界って根性じゃないけど燃える空気がある。そこに熱意がある。

岩崎　夏は冷凍庫の中で、冬は校庭のリンクで。

――校庭に水を撒いてリンクを作る。そんなアイスホッケーに明け暮れる毎日。岩崎さんはその頃から将来は日本リーグの選手になりたいって思ってました？

岩崎　苫小牧ですからね。王子製紙は憧れのチームでしたし、入りたいなあと思ってましたね。高校生の時も大学に行くか、王子に行くかって悩んだり。苫小牧での試合はいつも行ってました。今でこそＹｏｕＴｕｂｅで試合もすぐに見られますけれど、昔はそうではなかったですから。

――苫小牧は日本のトップの選手たちを見られる環境ですからね。アイスホッケーを始めたときからずっとキーパーだったんですか？

岩崎　高校に入って、キーパーがいないっていうんで、それで。

――技術の基本は？

岩崎　小学生でキーパーやったときに同級生のお兄ちゃんがキーパーだったんです。その人に教えてもらったのが少し。あとは年1回、王子のアイスホッケー教室があったときくらいですね。もう我流です。

――その選手がオリンピックに。すごい。

岩崎　中学ではディフェンスだったんです。後にその経験がキーパーをやる上で役に立ちましたね。

――全体的なイメージが出来ることに繋がったんだ。

岩崎　キーパーとは別のスポーツみたいなものなんで、レベルは中学生のレベルですけれど。すごく助かりましたね。

――明治大学へ進んで、コクドへ。当時は北海道の代表が王子で、本州の代表がコクドという感じでしたね。東京へ進学したことが大きかった？

岩崎　コクドは東京でやっぱりナショナルチームだし、まぁ強かったですね。誰もがトップレベルで、試合にはなかなか出られないんだろうなあとは思ってましたが。

――飛び込む勇気って若さの大事なところですね。岩崎さんが入ってからコクドは一番輝く時期になったっていうイメージがあるんですけど、どうですか。

岩崎　僕が入った時期はチームのバランスが一番良かったと思います。

――そのチームの中で岩崎さんはまっしぐらに彗星のように出てきて、まっしぐらに代表へ、みたいなイメージでした。

岩崎　1年目に試合に出た時に、たまたま調子がよかった。そういうのって運ですね。

――どんな選手でもそうだけど、試合出してもらわないと伸びませんね。1年目からプレッシャーのかかる経験が出来たのはすごい事ですよね。

岩崎　そこがすべてだと思います。地に足がつかない、足に氷にがつかない感覚。その状況でもすごく集中できたんです。あんな気持ちで試合やったことは初めてでした。

――岩崎さんはここは抑えきらないと、という場面でギューッと力を出してました。勝負どころに強かった。今のキーパーはみんなサイズが大きいでしょ。国際レベルの試合を岩崎さんのサイズで戦ってきたのはすごいこと。僕らファンは長野オリンピックのときの岩崎さんの雄姿は忘れられません。

岩崎　オリンピックに出られたのは誇りに思っていますけど、あんまりいい思い出がなくて。誰が選ばれる、使われるってことから始まって、いろんな理不尽なことにもみんな我慢してました。オリンピックに出たいから。

――自国開催の代表のストレスって半端ないですよね。

岩崎　特殊な環境でしたね。代表チームは日本リーグに出ずに、一年の半分以上は海外遠征をしてたんです。でも僕は一度日本に帰ってきたんですよ。12月中旬。長野オリンピックの直前のスイス合宿のときにパックが指にあたって骨折したんですよ。「もう直前だし、やばいな」って思ったけど、指にパットして、スティックにもパットして。オリンピックの時もそうやって出場しました。

――今、男子日本代表が韓国代表に歯が立たないでしょ。次元の違うような負け方。あれはショックです。なんとかしないと。

岩崎　私に出来ることがあれば、男子のホッケーを手伝いたいなと思っています。代表チームだけでなく、自分がやっていた競技を将来に向けて盛り上げる力にならなければいけないなって気持ちはあります。

PROFILE プロフィール

岩崎 伸一（いわさき しんいち）さん

苫小牧東高校→明治大学。1991年に国土計画（後にコクド）入社。1992年日本リーグ最優秀選手。日本代表としても長野オリンピックに出場。
2003年現役引退し、コクドのコーチに。2005年～2007年コクド（後にSEIBU）監督。
アジアリーグ2005-2006シーズンに就任1年目で最優秀監督賞を受賞。
現在は神奈川県アイスホッケー連盟理事として、競技の普及啓発に取り組んでいる。

取材を終えて

名GK・岩崎伸一さんの現役時代は、もうホントにすごかったのだ。とにかく反射神経が良くてどんなシュートも止めてしまう。試合の流れを読んで、起承転結がつくれるキーパーだった。

僕は当時、コクドアイスホッケー部のファン感をのぞきに行ったことがある。岩崎選手にサインをもらった。その日、たまたまあごにバンドエイドを貼っていたのだが、岩崎さんに「ラフプレーですか？」と言われた。